

Sencia

[センシア]

ソフトパワーで
大阪のさらなる未来を輝かせよう

2017.03

巻頭対談 [金 美齡 × 岡部倫典]

テーマ「グローバルリーダーシップの新基準」

特集「温故知新 大大阪時代を歩く」 [第2回] 御堂筋

「探訪・浪速の名匠」 カメラのナニワ
「ザ・元気人インタビュー」 箏演奏家 片岡リサ

元台湾総統府国策顧問

一般社団法人大阪青年会議所 理事長

完成80周年記念

写真: 御堂筋 (梅田上空より淀屋橋方面を望む)

Osaka City
Hop-on Hop-off pass
大阪観光乗り降り自由バス

Hop-on Hop-off

All in one!



Loopbus



Ship



Subway

Tourism around Osaka by bus, ship and subway

バス・船・地下鉄で巡る大阪観光



OSAKA
WONDER LOOP
13Area



OSAKA
WONDER CRUISE
4Area



Subway

Loopbus & Ship
1day pass

2
days

You can use for 2days with 1day pass
1日券でループバスとクルーズのみ2日間利用可能!!

30
More
Offer
discounts!

Fare
販売価格

1 day pass ¥3,000

2 day pass ¥3,500

Sale Place
販売場所

You can buy tickets on the Osaka Wonder Loop Bus
And Sales Window for Commuter Pass (Umeda, Namba, Tennoji stations)

Sales period 発売期間 Until March 31, 2018
平成 30 年 3 月 31 日まで

Expiration date 有効期限 Until April 30, 2018
平成 30 年 4 月 30 日まで

大阪の魅力を世界に発信!

Come and See with Us the Best Spots of OSAKA,
the Most Enjoyable City of JAPAN!



Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

巻頭対談

一般社団法人大阪青年会議所理事長

岡部 倫典

元台湾総統府国策顧問

金美齢

テーマ...

グローバルリーダーシップの新基準

と感じます。

金氏 日本は世界でも安全で安定している「いい国」だから、それが当たり前になってしまっていて、普段なかなか自国のことに目を向けない訳です。

しかし世界はそうではないから、逆に自国のアイデンティティを深く考える。もう一つは、メディアの報道の仕方ということもあります。日本のこと、歴史のことを語ろうとすると「ナショナリスト」という烙印を押されたりします。こういう背景は大きいと思いますよ。アメリカでは堂々と「アメリカファースト」と言えますけど、日本では大きな声で「ジャパン・ファースト」なんて言えないですもんね(笑)。

今年の大阪JCは「発信」がテーマ。数は力。

理事長 本当そうですね(笑)。確かに「控えめ」を美德とする日本の文化のせいか、世界であり日本のことか自分のことを語って来なかったですよ。この点で私たち大阪青年会議所としては、特に今年は「発信すること」に力を入れていこうと考えています。そうすれば私たちを知ってもらえるだけでなく、私たちも外からの反応を知って学べる。その「発信する」二環のイベントとして、今年の6月



25日に、大阪城の北堀を使ってトライアスロン大会を開こうと企画しています。

金氏 まあーそれは面白い。

理事長 「発信」を目に見える、わかりやすい方法でやろうと思っています。一方で、2001年から「淀川花火大会」も企画・主催して、JCの会員が大会開催のボランティアをずっと務めて来ていますが、この事をこれまであまり発信してこなかったためにJCが関わっていることがあまり認知されていません。今後はこの点もPRしていこうと思っています。

金氏 ユニークな取り組みですね。大阪JCは日本では最大なんですよ？

理事長 毎年平均で1100名ほどいます。

金氏 素晴らしい。「数は力」ですからね。組織というのは大切です。特にJCという組織は、ボランティアですよ。自分の仕事も家庭もあるのに、自分たちのお金を使って手弁当で皆さん「生懸命」やってらっしゃる。本当に素晴らしいです。私は九州のあるJCの理事長さんが本当に頑張てらっしゃるので、奥さんもお招きしてお寿司を、馳走したことがあるんですよ。

理事長 それはすごい！(笑)。

金氏 私は頑張っている人は応援するんです。エールを送るんですよ。それが年寄りの仕事ですから(笑)。

真のリーダーの資質は、「威張らない」、「裏切らない」、「闘う勇気がある」。

理事長 有難うございます。大変心強いです。

米国トランプ大統領の就任と移民問題、迫る英国のEU離脱、北朝鮮の核増強と強まる対外強硬姿勢など、先行きの不透明感をいよいよ増す国際情勢。その中で日本の外交は、韓国、中国、ロシアとの交渉と綱引きとの間を行き来する。他方国内では、3年後の東京五輪、2025年を目指す大阪万博と、世界に日本を大きくアピールする機会も近づく中、日本のリーダーたちに求められているのはグローバルな視点と見識に基づく巧みなリーダーシップ。

今号の巻頭を飾る理事長対談のゲストは、2月の月例会講師として大阪青年会議所がお招きした評論家の金美齢氏。帝国ホテル大阪での講演終了後の控室に金氏をお尋ねし、「グローバルリーダーシップの新基準」のテーマの下、豊かな教養と国際感覚、鋭い知見を持たれる金氏の日本と大阪のリーダーたちへの提言をお伺いした。

アメリカが「アメリカファースト」なら、日本は「ジャパンファースト」。

理事長 本日は素晴らしいお話を有難うございました。講演に引き続き重ねてお話を伺えることになりましたが、どうぞよろしくお願い致します。

金氏 こちらこそ有意義な場にお招き頂いて楽しませて頂きました。

理事長 有難うございます。早速ですが、今日は「グローバルリーダーの新基準」ということでお話を伺い致します。大阪青年会議所が力を注ぐ未来のリーダーの育成という観点から考えますと、今回のこのテーマは教育と深く関わっていると感じます。具体的に言うと、先生が先ほどの講演でも強調されましたように、世界のリーダーたる者は自国

仰つて下さったように、大阪青年会議所は日本最大のJC組織です。一方、全国に696のJC組織がありますが、その7割が30人未満で、全部を足しても35万人ほどしかないのが日本のJCです。ですからそういう中で、大阪青年会議所が担う役割は大きいと考えています。特に、大阪の経済文化や歴史、また進取の気性のある大阪人の資質という点から、これから育つリーダーが日本全体をリーディングしていくべきと考えています。が、この点で先生からのアドバイスを頂けますでしょうか？

金氏 リーダーになる人の条件というものがあるんですよ。私が安倍晋三という人を最初からずっと応援してきたのは、彼が「威張らない」、「裏切らない」、そしていざという時には「闘う勇気がある」人だからなんですね。これこそがグローバルリーダーの真の資質です。これは「国の首相としてだけではなく、あらゆるリーダーとして最高の資質だ」と思います。国のリーダーでも、組織のリーダーでも、また家庭のリーダーとしてもそうですね。

理事長 なるほど、仰る通りですね。一方、私は大阪青年会議所の理事長として、日本や世界のどこに行っても「大阪」という看板を背負っているということを意識します。特に先輩たちから継承してきた「大阪ならではの」伝統、先生も講演の中で言われていた「義理人情」も守っていくべきであるとも考えています。

金氏 それはとても大事なことですよ。

理事長 私はその点で、自分の行動指針として「先義後利」をモットーにしています。まず人のために自分が先に動く。利は後からついてくるというものです。大阪人は合理的と言われますが、一方で「義理人情」に厚くて、大阪商人の中にもその伝統があります。ただこれも今あまり知られなくなつていて、あらためて「発信」する必要があるかも

の文化や伝統について語れなければならない、ということですね。しかし今の教育においては、歴史を教えるにしても国史といった部分が足りないのではないかと感じますが、この点はどうにお考えでしょうか？

金氏 それはその通りだと思います。たとえば、今回アメリカのトランプ大統領が「アメリカファースト」というスローガンで当選なさった。これはアメリカのトップとしては至極当然な話です。だったら日本は「ジャパンファースト」でいきましょう、でいいんですよ。しかしそのためには、リーダーはやはり日本のこと、あるいは大阪のことを歴史も含めてよく知っていないならならぬ。グローバルなんだと言っても、まず世界で自分の国の歴史、そのいいところ、あるいは大阪のいいところを知りアピールできる、これが出発点ですよ。リーダーとしては、そういう自分のルーツ、アイデンティティを語れなければ、世界では通用しませんよ。

理事長 仰る通りですね。ただ私も含め、なかなかそういうものに目を向けて知る機会が少ない

しません。

金氏 その「発信」という点で私が面白いと思ったのは、名古屋です。私の息子は慶応に行きましたけど、名古屋大学も受けて合格した時に受け取った電報が「ヤチホコ、タツ」だったのね。これは上手いと思った(笑)。大阪大学でもそういうことをなさったらいいんじゃないかしら。

理事長 それは面白いですね。今度市長に提案してみます。

金氏 大阪の夜景も素晴らしいのに、あまり有名なじゃないでしょ？私は大阪に来たらいつもリッツ・カールトンに泊まるんだけど、その37階の夜景が素晴らしいからカーテンを開けっぱなしにするんですよ。でもこのすい夜景が知られていない。こういうこともやっぱり「発信」するべきですね。

アイデンティティ、教養、言葉の力。

理事長 なるほど。大阪には、古くからの歴史と日本第二の都市としての魅力が多くあるのに、まだまだ「発信」が足りないということですね。これはますます努力していこうと思います。さて最後に、今日の講演の中でも強調された、リーダーとしてのアイデンティティと教養の重要性についてまとめて頂けますか？

金氏 このグローバル化した社会で、リーダーの言葉には力と熱意が必要です。自分自身のアイデンティティに裏打ちされた力強い言葉。教養はその言葉に説得力を加えます。

理事長 なるほど、確かにその通りですね。今日は本当に有難うございました。





拡副中の御堂筋・本町付近(昭和3年)



拡張後の御堂筋・淡路町以南(昭和3年)



御堂筋の立体レリーフ・心斎橋～難波付近



完成した御堂筋とビル群(昭和12年頃)



現在の御堂筋 淀屋橋・中之島付近



温故知新

「大 大阪時代」 を歩く

【第2回】 御堂筋
祝・全線完成80周年

1937年、「東洋のシャンゼリゼ」と呼ばれた
全長4km幅員44mに及ぶ大幹線道路が誕生した。

取材協力：大阪市都市計画局・建設局
NPO法人御堂筋・長堀21世紀の会
図版提供：大阪歴史博物館
橋爪伸也コレクション
出典：大阪市ホームページ
「大阪のまちづくり 平成3年3月 大阪市」他

御堂筋・大丸前横断歩道

市民の想像をはるかに超えた計画は、着工に至るまで苦難の途を辿ることになる。まず、用地買収交渉でいきなり暗礁に乗り上げた。この頃、計画路線の大阪駅から淀屋橋南詰までは既に市電道路が開通していたが、淀屋橋以南は、先祖伝来の土地とのれんを守り続けてい

市民の猛反発、資金難…… 問題山積みの工事計画



第7代大阪市長・関一

年先の大阪を見据え、池上市長の政策をさらに発展させた「都市大改造計画」を打ち出し、メイン事業に「御堂筋新設拡幅工事」を掲げたのである。その内容は、やがて車社会が訪れることを予測し、旧国鉄大阪駅前から南海電鉄難波駅前まで貫通する道路を幅43.6mに拡幅し、中央部の地下に高速鉄道を建設するというものだった。大阪市都市計画局開発調整部デザイン施策担当の香川課長は「裏通りを巨大な道路にするという関市長の構想に、市民は『飛行場でも造る気か』と度肝を抜かれたと言われています」と話す。



旧堂島ビルディング付近(昭和14～15年頃)

※画像提供：橋爪伸也コレクション

大 大阪時代真つ只中の1937年（昭和12年）、御堂筋の拡幅工事が完了した。梅田と難波を結び、大阪市内を南北に貫通する大幹線道路は、やがて「東洋のシャンゼリゼ」と呼ばれるようになった。今年、開通80周年を迎えて尚、美しさと活気を保ち続ける御堂筋。その歴史を振り返る。

都市計画事業のひとつに 掲げられた御堂筋計画

大 阪市を南北に貫く、御堂筋。その規模は、全長約4km、幅員44mに及び、地下には市民の足となる地下鉄が走る。沿道には大阪市庁舎をはじめ、企業や金融機関、ブランドショップ、百貨店など、経済・文化行政といった都市機能が集まっていることから、しばしば「大阪市の大動脈」と称される。一方で、4列のイチヨウ並木が作りだす美しい景観は、喧騒の中にあつて人々の心を和ませてくれる。都心にいな

がらにして、季節の移ろいを感じられるのも、この道路の大きな魅力といえる。

御堂筋は今でも、大阪市の大メインストリートであり、文学に登場し歌詞曲にも歌われる大阪のシンボルだが、もともとは、北の淡路町から南長堀までの全長1.3km幅員6mほどの狭く短い裏道だった。

その延長と拡幅の計画が持ち上がったのは1921年（大正10）のこと。当時の大阪市は人口増加に伴うさまざまな都市問題を解決するために、道路や鉄道、下水道、公共施設の整備を行う「第二次都市計画事業」を進めようとしていた。そのひとつが、御堂筋計画だった。

その計画をさらに発展させ、強力に推進したのが、第六代大阪市長池上四郎氏の助役として来阪した、関一氏である。その後、第七代大阪市長に就任すると、100る船場、淀屋橋などの商家や大邸宅が密集する地域で、道幅は6mほど。その狭い道を約8倍に拡幅するのである。立ち退き交渉がスムーズに進むはずもなく、市民から猛反発を食らった。大阪市建設局道路部道路課の梶谷課長代理は「当時の担当者は、御堂筋の拡幅が大阪の発展のためにどれだけ貢献するかを解き続けて理解を求め、同意を得るまで何度も頭を下げてまわったようです」と話す。

もうひとつの問題は、工事費用の捻出だ。この計画は前例のない大事業だったため、工事にかかる費用は莫大で、立ち退き料もかなりの額にのぼった。さらに、道路新設拡幅工事と並行して、地下鉄建設工事も進められることになった。第次世界大戦を転機に都市部が業務区域、周辺部は住宅区域に分けられ、両区域をつなぐためには路面交通機関だけでは不十分だったため、鉄道建設は急務だったのである。

これらの工事費用は当初、国からの援助を受けることになっていた。しかし、関東大震災の復旧費の支出が増えたため、この都市計画事業への国庫補助が打ち切られてしまった。また、政府の非募債政策によつて財源の要だった公債募集にも手間取り、資金計画は見直しを余儀なくされた。その結果、着工は大幅に遅れてしまう。

厳しい資金計画を打開するために関

市長が踏み切ったのは、「受益者負担金制度」の適用だ。これは、御堂筋の新設によつて土地の利便性が高まつて評価が上がることを見越し、その上昇分を土地所有者である受益者が負担し、施工者が負担金を徴収して工事費に充てる制度のことで、全体の工費の3分の1が受益者負担金でまかなわれることになった。地下鉄建設資金も、駅を中心とする半径500mを受益者負担金圏内とした。御堂筋に面していない市民からは「御堂筋から遠く離れた私らが、なぜお金を払わねばならないのか」という不満の声があり、徴収額は予定より下回った。



雪の日の地下鉄工事現場(昭和7年頃)

事故が多発し困難を極めた水の都の地下鉄工事

立ち退き交渉の遅れ、財政事情の悪化によつて遅々として進まなかった御堂筋計画は、1926年(大正15)10月、

やがて高度経済成長期が訪れると、大阪の町と御堂筋は再び活気と賑わいを取り戻していく。



心斎橋に初進出した頃のシャネルとディオール

(昭和33)には建設大臣の直轄管理となり国道指定を受け、1965年(昭和40年)頃には空前のマイカーブームが到来。広大な道幅を誇る御堂筋にも混雑が目立ち始め、1970年(昭和45)には大阪万博の開催にあわせて南向き一方通行となる。約80年前、来たるべき車社会を予測し、市民の猛反対を受けながらも計画を遂行した関市長。その優れた先見の明は、若き日々の西欧留学の賜物と思われるが、この突拍子のない一大事業を完遂できたのは、



カルチエ付近の歩道

ようやく着工に至る。一方、地下鉄工事は1930年(昭和5)1月に着工したが、その工事は難航を極めた。

「堂島川、土佐堀川、長堀川、道頓堀

川の4本の川の下にトンネルを通さなければならなかったので、当時は川の水をせき止めて川底を掘り、その後、トンネルの天井を閉じて水を流す、という方法で工事をしていたようです」と香川さん。土佐堀川での工事では、川をせき止める締切りが決壊して道路の一部が冠水、市役所前の市電が不通になるという事故も起こった。また、大阪の地盤は軟弱で、地下にトンネルを掘る作業では何度か漏水騒ぎが起こった。さらには、「長い鋼矢板を打ち込む際、ツチ音がガンガン響いて『家が傾いた』『震動で電球が切れた』といった苦情が市役所に持ち込まれたといわれている」と大阪市建設局総務部の山向企画課長は言う。工事中には、騒音や震動に対して周辺住民の決起集会も開かれるなど、一筋縄ではいかない難事業となった。



大阪市都市計画局の香川課長(中央)建設局の山向課長(左)・梶谷課長代理(右)

地下鉄駅構内の豪華さに見物客が殺到

工事は市民の反対と数々の問題に直面したが、1933年(昭和8年)5月20日、道路よりいち早く梅田―心斎橋間に地下鉄が開通すると、地下駅構内の壮麗さと120人乗りの全鋼製車両を二目見ようと、多数の市民がどっと押し寄せた。初試乗した鳩山文相も、欧米の技術の粋を集めたその豪華さに目を丸くして「これは、立派」と感嘆したという。「車両二両に対してプラットフォームが長すぎる」「停留場が広すぎる」と非難めいた声もあったが、現在の混雑ぶりを見れば、当時、このような見通しを立てて建設したことに感服せずにはいられない。



地下鉄心斎橋駅のエスカレーター(昭和8年頃)

一方、道路が完成したのは、1926年(大正15)10月の着工から11年後の

店し、界限はファッショナブルな街へと変貌した。



御堂筋イルミネーション

御堂筋は、このスーパーブランドが集まるエリアと、淀屋橋から本町までの大阪を代表するビジネス街、アジアのつばさながらの猥雑性を含む難波界限、とエリアによつて異なる個性を持っている。成松さんは、「それこそシャンゼリゼにはない御堂筋の魅力であり、それぞ

れの特徴をブラッシュアップすることで、大阪経済の中核的存在にまで引き上げられる」と考えている。

「大阪には、御堂筋という素晴らしい遺産があります。これを現代に合うよう更新して使いこなすことで、大阪の将来はもつと輝くと考えています」。著名人「御堂筋サポーターズクラブ」による御堂筋の活性化への協力を呼び掛ける。



御堂筋・難波付近

1937年(昭和12)5月11日。幅44mの中央部を高速車道、その両側を緩速車道、さらに両端を歩道とした。完成時には、御堂筋のシンボルとなるイチヨウが、淀屋橋南詰から難波までの4列の区分線に約800本植えられた。また、梅田から淀屋橋北詰まではプラタナスが植えられ、緑豊かな道路に仕上がった。そもそも、車社会を見越しての大事業だったが、開通当初、車はほとんど走っておらず、だだっ広い道路は閑散としていた。また、電線は地中に埋められ、イチヨウ並木が延々と続き、都心とは思えないほどのどかな風景が広がっていた。しかしこの道路こそ、大正時代のもう一つの原動力になるのである。

沿道は問屋街として発展し大阪経済の中心に

市民から反対された御堂筋が開通すると、関市長の予測通り、大きな経済効果を生みだした。沿道は問屋街として繁栄し、全国的に知られる道修町の菓種商、御堂界限の人形問屋、船場の織機問屋などが軒を連ねた。大企業や金融機関もこぞつて沿道にビルを建てはじめ、百貨店も御堂筋を賑わせた。戦争中は大空襲で大阪の町全体が大きな被害を受けたが、御堂筋は道路、地下鉄、街路樹とともに無事に残り、復興をめざす市民の心の支えとなった。

現させ、ベンチやカフェ、トイレ、観光客のための案内所を設置する。また、交差点は記念撮影スポットになるような「80周年記念モニュメント」をつくる……。同会は、さまざまな計画を大阪市に提案している。

80周年を機に、さらに魅力的な道路に変わろうとしている御堂筋。大阪時代、100年先の大阪のために築かれた御堂筋が、大阪を再び活気づける。



御堂筋・長堀21世紀の会 成松理事長

「御堂筋完成80周年記念事業」を実施

大阪市は今年、御堂筋が築き上げてきた歴史的意義を再認識するとともに、市民と共に御堂筋の将来を考え、市民と共に記念の年を祝すことを目的に「御堂筋完成80周年事業」を実施する。御堂筋が完成した5月11日に第1回シンポジウムや、ワークショップ、民間との対話や議論を通して、将来のビジョンの策定の策定、また御堂筋を華やかに演出する取組みを行うなど、さまざまな事業を展開。今年を公民連携による新しい御堂筋づくりをスタートさせるキックオフイヤーとする。



この店、この一品。

「第2回」ガスビル食堂

ムーサカ



男性はスーツで、女性はおめかししてモダンを楽しんだ

大正時代、大阪ガスに生まれた、
「モダンシティー」の味。



今も変わらない味「ムーサカ」

「当初、大阪ガスのオフィスとして使われていたのは2フロアのみで、オフィスビルというよりは、西洋文化の発信拠点という位置付けでした。館内では最新のガス器具を展示し、ガス器具を使う料理講習も開催されました。2階から4階の最新設備を誇るお洒落なホールでは、モボやモガと呼ばれた人々が芝居や映画を楽しんだんですよ」とマネジャーの木下芳信さん。



ガスビル食堂マネジャーの木下さん(右)と支配人の若林さん(左)

洒落た欧風料理を楽しみに訪れたのは、もっぱら界限の船場や道修町の商家の人々だった。館内の理容室や美容室でおめかしをし、ガスビル食堂で食事をを楽しむのは当時のステイタスであり、家族の思い出となった。支配人の若林

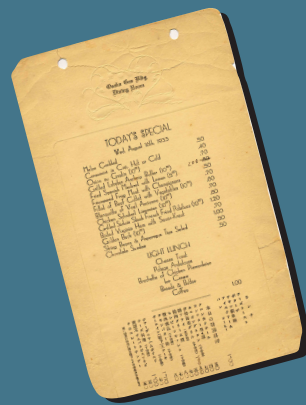
洒落た欧風料理を楽しみ、に訪れたのは、もっぱら界限の船場や道修町の商家の人々だった。館内の理容室や美容室でおめかしをし、ガスビル食堂で食事をを楽しむのは当時のステイタスであり、家族の思い出となった。支配人の若林



1933年のガスビル外観

ガスビル食堂

大阪府中央区平野町4-1-2 ガスビル南館8F
電話番号: 06-6231-0901
営業時間: 11:30~10:20:30 定休日: 土曜日・日曜日・祝日



創業当時(1933年)のメニュー

新たな思い出を綴る場所であり、また新しく訪れる人々にとっても、あの時代の残り香をそこかしこに感じつつ、受け継がれてきた「モダンシティー」の味に舌鼓を打てる数少ない店の一つとなっている。

【VOL.2】

御堂筋

メインストリートの80年

※画像提供: 橋爪伸也コレクション

御堂筋は今年で竣工から80年の節目を迎える。

大正時代になり、日本最大の商業都市となった「大大阪」では「市区改正」、すなわち都市計画による市街地の近代化が課題となる。とりわけモータリゼーションが予見されるなか、道路網の再編は急務であった。

大正10年、第一次都市計画事業の策定において、40路線の道路整備と81の橋梁掛け替えなどが認可される。そこに都心を貫通24間(2.4km)幅の新道が「廣路」の名で位置づけられた。のちに御堂筋の愛称で親しまれるメインストリートの整備計画がここに位置づけられた。

当時、大大阪を支えた幹線道路は、金融街の北浜を貫く堺筋、および明治時代のビジネスセンターである出入橋から湊町・難波の鉄道駅に至る南北線(四つ橋筋)であった。この二筋の混雑を解消するべく、双方の中間を抜く最大幅員の新道が計画された。

梅田駅前を起点に難波駅前まで、全長4キロほどの路線である。大正15年に着工、まず大江橋北詰までの区間が完成し、昭和2年4月に「梅田新道」として供用された。

ついで南への延伸が始まる。3〜4間幅しかない既存の道を拡幅するわけだが、まず用地買収が難航した。そこで市長の関心は、新道ができると利益を得るであろう沿道の地権者に「受益者負担金」と称する分担金を、全国で初めて課すこととし事業費に充てた。また御堂筋の建設は、恐慌によって生じた失業者の救済事業という意味もあった。

昭和6年の春に久宝寺まで、昭和12年に難波までの全線が供用される。10年5ヶ月もの工期と三千三百万円の工費をかけて、欧米の大都市にも負けない堂々たるメインストリートがここに誕生した。

御堂筋は、市電軌道、自動車用の高速車道、植樹帯、牛馬車・荷車・自転車用の緩速車道、歩道に区分された。交通の円滑化をはかるべく、系統信号も採用された。御津と順慶町には、歩行者の安全を確保するべく地下道が建設された。

「都市美」を創出することも、重要な命題で

あった。架線や電柱を設けず、最新の街灯を配置、大江橋や淀屋橋などの橋梁は公募によって優れたデザインが採択された。また沿道を美観地区に指定、統一された近代的な景観の誘導が企図された。さらに「都市の緑化」を目標に掲げて、大江橋以北はプラタナス以南はアジア原産の銀杏を街路樹とし、「公園道路」という性格も付与された。

市電やバスの慢性的な混雑を解決する高速鉄道として、地下鉄も建設された。昭和5年1月に起工。河底の掘削など難工事が続いたが、昭和8年5月、梅田から心斎橋駅までの区間がまず開業。順次、延伸された。10輦での運転を想定したホーム、エスカレーターの設定、各駅の壁色を変えるカラーサインなど、最新の発想が具体化する。実現はしなかったが、梅田駅や難波駅では地下商店街の計画もあった。

新しい道に面して、堂島ビルディング、美津濃運動具店、安田銀行、日本生命、大阪ガス、伊藤萬商店、伊藤喜商店など、続々と近代的なビルディングが竣工する。また阪急、そして、大丸、高島屋などのデパートも、店舗のビルディング化を進めた。

昭和11年7月、『大阪時事新報』は「坪六百円で買ったものが僅か半年余りで五千六百円に売れた」という事例を紹介し、沿道の地価の高騰を報じている。記者は、懸念された受益者負担金も「恐らく問題ではあるまい」と書いている。

戦後、銀行やオフィスビルが集積する御堂筋は、大阪のビジネスセンターとなり、都市の復興と高度経済成長を牽引した。また軒高のそろったビルディング街が、当初の理想とされた美観を実現した。

しかし近年、梅田や中之島にビジネスセンターが移り、御堂筋沿道の活力は相対的に低



下した。耐震性に課題のあるビルも多く、建て替えの促進が課題になる。そこで大阪市は平成26年1月に「御堂筋デザインガイドライン」を策定、低層に品格のある賑わい

機能を誘導しつつ、レジデンスなどの建設と高さ規制を緩和した。また緩速車線の歩行者空間化を促す「御堂筋の道路空間再編」も着手された。

いっぽうで「御堂筋イルミネーション」の継続実施、F1の走行などで話題となった「御堂筋オープンフェスタ」等のイベント実施、沿道のタウンマネジメント団体のネットワーク構築など、御堂筋の魅力向上に関わる事業も重視されている。

御堂筋界限は、かつての業務中心地区から、オフィスとホテル、さらには商業機能が混在する複合用途の「生活文化都心」と転換をはかりつつある。私は御堂筋が貫く中央区で生まれ育った専門家として、ここに述べた連のハード、およびソフト事業の計画立案と実践にあつて、キーパーソンとして尽力してきた。「交通問題への対応」「都市美の創出」「都市緑化の進展」など、「大大阪の時代」に先人たちが示した御堂筋の初期設定を継承しつつ、次世代の水準に発展させて、沿道のリノベーションに取り組むことが、私たちの世代に課せられた責務である。



橋爪伸也
はしづめしんや
大阪府立大学
21世紀科学研究機構 教授
観光産業戦略研究所 所長

【第二回】カメラのナニワ

お話し 塩山高之会長

御堂筋界隈の鰻谷に本店を構え、およそ70年もの長きにわたり来店する多くの人々にカメラと写真の素晴らしさを伝え続けてきた「カメラのナニワ」。

その間、写真はフィルムからデジタルへ移行するという大変革を遂げました。

今回の「探訪浪速の名匠」では、いつの時代もお客様のニーズに細やかに対応しながら、カメラと写真の文化を支え続ける「ナニワ商会」塩山高之会長にお話を聞きました。

時代が変わっても、色褪せない想い。



塩山高之会長

当店へはいつでも気軽に！下駄ばきで、ウエルカム。



1990年頃の一枚

ると、多くの人に写真撮影を楽しんで欲しいと願う気持ちとともに、写真文化を支えたいという想いが強かったようです。

写真の素晴らしさを伝える

フィルムカメラには、デジタルカメラでは表現できない陰影や、手触り感に独特の魅力があります。撮影した写真をすぐ見ることができないため、シャッターを切るのが慎重になるなど、楽しさに繋がる付加価値をもたらしていたと思います。しかし、デジタルカメラという巨大なモンスターが現れ、写真はスマートフォンで撮影するのが当たり前になって、カメラの世界は大きく変化してしまいました。全く予期していなかったこの急転直下の大変化には当初殆ど成す術もなく、経済面では大打撃を被りました。



1956年頃のナニワ商会本店

しかし、フィルムからデジタルに移っても、カメラと写真の文化の守護者としてのナニワの立ち位置を守り抜かねばなりません。当店では今でも変わることなく、専門知識豊富なスタッフがお客様の要望に向き合う対面接客の伝統を大切に、またカメラ専門店ならではの提案を試みることも続けています。プロのカメラマンの方々にも

信頼頂き、一眼レフのレンズなど高価な商品をお求めよくご来店頂いています。創業からおよそ70年。先代から受け継いできたカメラと写真の素晴らしさを伝える姿勢こそが「カメラのナニワ」の伝統であり誇りです。及ばずながら「名匠」のお仲間に入れたら、これからもこの伝統と誇りを守り続けて、そのことだと思っています。（談）



1956年当時の社員集合写真



株式会社ナニワ商会
カメラのナニワ 心斎橋本店
〒542-8678
大阪市中央区心斎橋筋1丁目4番29号
TEL:06-6281-4133
http://www.camerananiwa.co.jp/

全盛期（1980年代）の心斎橋本店

芸能に最も理解のある街・大阪に生まれ育ち、住み、大阪弁を話すことは、私と私の演奏のアイデンティティであり、礎です。



箏演奏家

片岡リサ氏

わ たしが専門とする箏をはじめ、三味線音楽・文楽・歌舞伎など、日本の伝統芸能といわれているものの多くは、大阪（上方）にゆかりがあることはご存知でしょうか。大阪は商人の街であるだけでなく、芸能に最も理解のある街でもありました。

この文化の街・大阪に生まれ育ち、早ウン十年を過ごしていますが、箏の演奏家として大阪弁は大変素晴らしい言葉だと実感することがあります。

あまり知られてはいませんが、箏は歌いながら演奏する楽器で、作品の多くは江戸時代に作曲されており、歌の節は大阪弁のイントネーションに近いのです。また自然をモチーフにした曲も多く、中でも雨や川など「水」に関するものがとても多いのです。大阪といえば、水の都。私も家の近くに淀川が流れており、中学生の時には淀川でしじみ採りをしたこともあります。箏演奏家の私にとって、文化の街そして水の都である大



プロフィール
大阪音楽大学卒業、同大学専攻科修了。
2015年大阪大学大学院文学研究科(音楽学)修了、現在博士後期課程在学中。専門は日韓伝統音楽比較。
幼少より箏・三絃を始め、1998年、宮城道雄記念コンクール一般の部第1位受賞。2001年、文化庁芸術祭音楽部門新人賞史上最年少受賞。2010年、大阪文化祭賞受賞。2011年、初めての若手箏奏者による受賞となった第21回出光音楽賞受賞。大阪市より、平成23年度咲くやこの花賞受賞。「歌」にも定評があり、箏曲の古典「地歌」だけでなくベルカント唱法での弾き歌いも行い、関西歌劇団のオペラ公演にも出演。国際交流基金派遣による大洋州コンサートツアーなど海外演奏も数多く、現地メディアからも高い評価を獲得している。
大阪音楽大学、同志社女子大学、兵庫教育大学講師、宮城社師範。

阪で育ち、大阪に住まい、大阪弁を話すことは、私のアイデンティティであり演奏の礎にもなっています。
今や文化も情報も東京一極集中化が甚だしいですが、音楽の演奏家たちも同じ状況です。が、私はあえて生まれ育った大阪から離れず、大阪から日本全国へ、そして世界への発信を信条にしています。先人たちが上方からさまざまな芸能文化を全国に発信したことを、時差もなく世界のどこにでもウエブでつながっている現在にできないはずはない。大阪の空気と、大阪の人々が作り出したこの雰囲気、これをたくさん吸っている私だからこそできる表現をこれからも続けていき、大阪発世界へ、箏の演奏を届けていきたいと思っています。もちろん、カバンにはいつも鈴ちゃんを忍ばせながら。

わんぱく相撲 REPORT

親子で見つけた夢に向かって

第35回(平成28年度)大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会優勝 山城 輝流君インタビュー



**わんぱく相撲に参加した
ことで芽生えた夢**

5年生となる今年は市で優勝、府下でも上位を狙い、必ず全国大会へ行く！と意気込む山城親子。

好きな食べ物は何？の質問に「エビ！」と大きな声で即答する輝流君。お鍋も大好きで食べ盛りの彼に、将来の夢について聞くと「お相撲さんになりたい！」とキラキラ目を輝かせながら笑顔で答えてくれた。尊敬する力士は逸ノ城関と稀勢の里関だという。

四股(しこ)はまだ上手に踏めない、柔軟性がなくて股割ができない、技の名前も覚えられていないなど、まだまだ課題はたくさんあるが「負けたくない！全てに勝つ！」と言い切る山城親子には、これで一心同体となつて見る夢ができたのは間違いないだろう。

**挑戦！
自分の限界を乗り越えろ！**

私たち大阪青年会議所は「わんぱく相撲」を通して、勝つことの喜び、負けることの悔しさ、勝者を称えつつ敗者への思いやりを持つ気持ちを育むことを目的とし、心豊かな子供達を育てるために35年間この活動に取り組んで参りました。

また今後は、大会を通して私たち青年会議所と地域が協力しあえる環境を作り、地域社会を活性化することも目的としています。



何か打ち込めるものを

山 城輝流(やましろひかる)君がわんぱく相撲へ出場する事を決めたのは、2013年、小学校1年生の時。学校からの案内を見たお母さんからの勧めによるものだった。

それまで相撲の経験は全くなかった。出場するまでの日々の練習もおそろか気味だった、しかし試合当日持ち前の体格と気合いで挑んだ結果、何と初出場にして優勝を手にする事となる。

この優勝がきっかけで「私の方が先に闘志に火が付いたんです。」と話す母親の景子さん。そのお母さんの期待と熱意に応えようと、輝流君はこれまで4年連続でわんぱく相撲へ出場してくれている。

練習相手がいない

実は、輝流君は衝動性の発達障害があるため、集団行動が取りづらく、周りから勧められた相撲クラブにも入る事はできなかったため、これまでの練習相手はいつもお母さんだった。近くの公園での個人練習や団地周りの走り込みなど、お母さんと二人三脚でこれまでの大会に挑んできた。

もともと大きな体だった輝流君は、毎年10kgペースで体重が増え、この年間だけでも14kg増。現在67kgにもなるその体を前にしては、お母さんも練習相手としてはもはやお手上げのご様子で、今は小学校の教頭先生にお手合わせいただくこともあるとか。

このままでは練習にも限界がくるのではないかと危惧するお母さんは、輝流君の発達障害も考慮しながら、相撲クラブへの入会も考えている。

**負けを知った時に
強くなれた**

大阪市大会では優勝を重ねた輝流君だったが、3年生の時に予選敗退となり初めての敗北を味わい涙を飲んだ。その悔しさから「負けたくない！」という思いが強くなり、練習にも力が入るようになったという。幼いながらも「自分のやり方で勝ちたい」と信念を持つ彼も、敗北を経験することにより、自分の勉強不足や稽古不足が身に染みたようだ。

負けた原因を本人に聞いてみると「勝てると思って気を抜いてた。相手を甘く見ていた。」とつむぎながら悔しそうに答えてくれた。母親の景子さんも「体形だけで判断して、簡単に勝てると思った細い子が技も達者でとても強かったのを見て、練習方法を考え直すようになった。」と振り返る。

それ以降、相撲番組も真剣に見るようになり、次の大会へ向けて親子丸となって熱心に取り組んだ結果、その翌年には大阪市長杯で優勝を遂げることとなった。



私たち一般社会法人 大阪青年会議所は
「挑戦～自分の限界を乗り越えろ～」
をテーマに掲げ、「わんぱく相撲大阪市大会」
を開催いたします。

今年で36回目を迎えることとなった
わんぱく相撲大阪市大会では、
毎年小さな力士たちが熱戦を繰り広げ、
たくさんのドラマが生まれています。
この感動を体験してみませんか？
ぜひ、わんぱく相撲大阪市大会に
家族でご参加下さい！

インターネットからの申込み方法

<http://www.osaka-jc.or.jp/wanpaku/>

- ①大阪青年会議所わんぱく相撲ホームページにアクセスし、必要事項を記入の上、送信して下さい。
携帯電話からも申込み頂けます。
4月14日(金)17時まで 申込可能です。
- ②送信後、登録して頂いたメールアドレスに確認メールが届くと、登録完了です。



平成29年4月14日(金)17時まで

第36回大阪市長杯 大阪市大会

挑戦～自分の限界を乗り越えろ～

わんぱく相撲

平成29年5月5日(祝)

エディオンアリーナ大阪 (大阪府立体育会館)

開催日

平成29年5月5日(祝)

場所

エディオンアリーナ大阪 (大阪府立体育会館)

住所：大阪市浪速区難波中3-4-36

OSAKA ええとこ撮り フォトコンテスト

第2回応募テーマ

「大阪の春一番」

ケータイ
撮影OK!

大阪市内で撮影した「大阪の春一番」な風景が入った写真を募集します!

募集期間: 2017年3月1日~4月30日

■応募詳細はHPにて

結果発表: 本誌次号(5月発行)誌上/HP上

大阪青年会議所

検索

【第2回応募テーマ賞品】風景部門 賞品

ヘリコプタースカイクルーズ ペイサイド 約7分 4人乗り 1名1組様

第1回フォトコンテスト

「大阪人のええとこ」結果発表!!

大賞



柿本 大治 様(大阪市) 「とんぼりリバーウォーク」
一言コメント)道頓堀をぶらり散歩

理事長賞



橋本 直子 様
(西宮市) 「心つないで」
一言コメント)どんな場面でも助け合い、これが大阪人のええとこです。

センシア賞



西野 隆司 様
(京都府八幡市) 「海と緑」

センシア賞



塩月 千春 様(尼崎市) 「日本一低い山? なんてやねん!!」

センシア賞



源 潮奈 様(大阪市) 「たこ焼き屋のお母さん」

発行
一般社団法人大阪青年会議所

企画制作 onthedesk
Producer/Creative Director
堀之内 博昭

ArtDirector/Designer
オガワヨウヘイ

Writer/Interviewer
堀之内 博昭・井本 旬子・小林 季実子

Photographer
渡辺 健五・上仲 正寿

編集後記

Sencia2017年3月号をお楽しみ頂けましたでしょうか? 今号のハイライトは、何といっても「御堂筋」に尽きると言えるでしょう。大阪市、御堂筋・長堀21世紀の会、大阪ガス、カメラのナニワといった、御堂筋とは切っても切れない縁を持つ自治体、団体、法人各社様のご協力を頂き、この完成80周年を迎える商都・大阪のシンボルの大特集を組むことができました。ご協力頂きました皆様には改めて心より感謝申し上げます。

ところで「この表紙はどこでどうやって撮ったのか?」とお尋ねかもしれません。答は、御堂筋に面して建つとあるビルのエレベーターの中から。暮れなずむ時間帯を地上で待ち、今だという瞬間にエレベーターに乗り込んで最上階の27階に到着すると同時にシャッターを押す。これを3回繰り返して、全ての信号が青となって遠くミナミまで続く車を車が流れ出した一瞬、というベストショットをモノにしました。カメラマン渾身の一枚です。



Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-30 オーク4番街401号室
TEL 06-6575-5161 FAX 06-6575-5163 www.osaka-jc.or.jp/

スマートフォン版



Global Academy Osaka

~スタートアップチャレンジ!~

常識をはみ出せ!!
世界へ飛び出せ!!



■募集対象

起業家コース: 25~40歳の、起業家または起業をめざす人
学生コース: 18~24歳の、大阪で生活する大学生

■募集期間

2月17日(金)~4月20日(木)

■プログラム期間

4月29日(土)~9月3日(日)

受講生募集のご案内

大阪青年会議所では今年度、「Global Academy Osaka ~スタートアップチャレンジ!」と題し、起業を通じて、社会課題を解決していく次代のグローバルリーダーの育成プログラムを開催します。大学生を対象とする「学生コース」、社会人を対象とする「起業家コース」の2つからなり、両コースの受講生には、ともに刺激を与え合いながら、多彩な講師陣による講義やグループワーク、プレゼンテーションを通じて、グローバルリーダーシップを身につけていただきます。また、プログラムにおいて、日本青年会議

所が主催する「超生産性向上大賞」へのエントリーを予定しています。これは、AI、IoT、ビッグデータ等の新技術を活かしたビジネスモデルの立案を行うもので、大賞には創業支援金として300万円が授与されます!

ぜひご参加を、または参加者のご紹介を、お願いいたします。



■応募方法

HP内、エントリーフォームよりお申込み。
<http://www.osaka-jc.or.jp/>

■受講料

起業家コース、学生コースとも、5万円(税込)。
※交通費等は実費。

くわしくは担当者まで。

起業家コース募集担当: 山川 正時
mail: gao2017en@osaka-jc.or.jp
学生コース募集担当: 下岡 佑一郎
mail: gao2017st@osaka-jc.or.jp

社会人講師事業

すべての子どもが持つ無限の可能性を引き出す「出前授業」。

大阪青年会議所には、10年以上継続する「社会人講師事業」があります。これは、地域の小学校へ赴き、大人が自らの仕事の内容や地域との関わりなどを子どもたちに伝える一種の「出前授業」ですが、お陰様で、これまで実施した学校の子どもたち、先生、また父兄の皆さんから好評をいただけてきました。

しかし、この10年間で社会や経済の状況は



大きく変化し、経済格差、シングルマザーの問題、児童虐待やネグレクト、貧困家庭の増大など、子どもたちを取り巻く家庭の環境も様変わりしています。

子どもたちがこれからの社会を強く生きていくために、またその子どもたちが持つ無限の可能性を引き出すためには、単にどんな仕事があるのかだけでなく、その仕事に社会に

おいて果たす役割や意義について、今こそ一線で働く大人たちからの熱いメッセージが必要であると私たちは感じています。私たちのこの考えにご賛同いただけるプロフェッショナルの方々、特に大阪ならではの仕事に携わる人、仕事に対して自身のポリシーや流儀を持つ方々がおられましたら、是非ともこの「社会人講師事業」にご参加いただきたくよろしくお願い致します。事業の詳細や参加の手続き等については、大阪青年会議所のHP上でご確認ください。



■入会はこちらから

大阪ファンファンクラブHP

<http://www.osaka-jc.or.jp/supporters/>